



▲ ボイ捨てゴミをたくさん拾いました

活動日当日は風が吹いていたこともあり、道路には落ち葉がたくさんあった。他にも、ペットボトルや空き缶、タバコの吸い殻等が落ちていた。

東京支社の周辺は観光地に近く、

たくさんのおフィスビルが立ち並ぶエリアであり、道路が整備されていて外観もきれいな場所が多い。

東京

TOKYO

10-100プロジェクト

実施

肌寒くなってきた11月中旬、東京支社のビル周辺の清掃活動を実施した。今回もフレックスタイム勤務者が多いことを考慮し、参加しやすいよう昼休みの時間帯に行い、総勢22人の方々に参加いただいた。

しかし、会社員や観光客等の人の往来が激しいせいか、残念ながらボイ捨てが散見される。普段は意識せず利用している道路だが、当活動により今まで見えていなかったさまざまなゴミを発見することができた。自分たちが働く街の環境について考える良い機会であった。

今後も定期的な清掃活動を通じて街の美化に努めていく。

■ カジュアル部が

展示会を開催

11月13～15日の3日間、東京美術倶楽部ビルディングのイベントスペースにて、カジュアル部が「CRAFTMANSHIP-Portfolio-」をテーマに展示会を開催した。

クラブウの開発商品を一挙に見ていただくため、特に徳島工場の独自技術の価値を見直し、お客さまに分かりやすく伝える機会を提供する目的で、2022年秋の開始以来、春と秋の年2回開催している。

今回の展示会の商品は、恒例化したカテゴリーを取り払い、酷暑対策向け素材の「FABRICCOOL」と色落ち加工の「HIGH WASH

SERIES」の二つの軸で展開した。

特に「FABRICCOOL」は、その機能性を体感できるスペースを設けることで、来場者が素材の性能を可視化できる仕掛けを取り入れた。さまざまな色合いや触り心地の商品が並ぶ様子は圧巻であり、また従来素材とクラブウ素材の機能性の違いを自身の目で確認することができ、クラブウの技術のすごさを、あらためて実感できた。

展示会の担当者からは、「今回で7回目の開催だったが、回を重ねるごとに素材のバリエーションが広がり、コンセプトや見せ方にも工夫を重ねてきた。さらに今回は、営業に焦点を当て、各担当者の顔パネルを展示したり、機能性を体感できるブースを設けたりした。新しい試みも取り入れることで、より魅力的な展示会になり、新たな価値を発信できたと感じている」。

「100人以上のお客さまにご来場いただき900もの商品をピックアップしていただいた。

今後は確度高くバルク（大量受注）へつなげることを目指しつつ、直接いただいたお客さまの声を開発や提案に生かしながらカジュアル部の展示会をさらに盛り上げて

いきたい」との感想をいただいた。今後も、カジュアル部の業容がより一層広がることを願う。

（総務課・渡部 記）



▲ 底部を素材で覆い、風を送ることで通気性の良さを体験できました



▲ 担当者の顔パネルが印象的でした